

西野だいすけ通信



皆さま、こんにちは。西野だいすけです。「西野だいすけ通信」をご覧いただき、ありがとうございます。今回は、熊本編特別号として、熊本が持続的に発展していくために必要な政策についてまとめましたので、ご覧ください。(通信 11~13号と重複します。)

西野だいすけが実現したい政策

人口減少について

熊本県の人口は、2015年から2045年までの30年間で約20%減少すると見込まれていますが、これは、全国平均の約16%を下回っています。

人口減少による影響

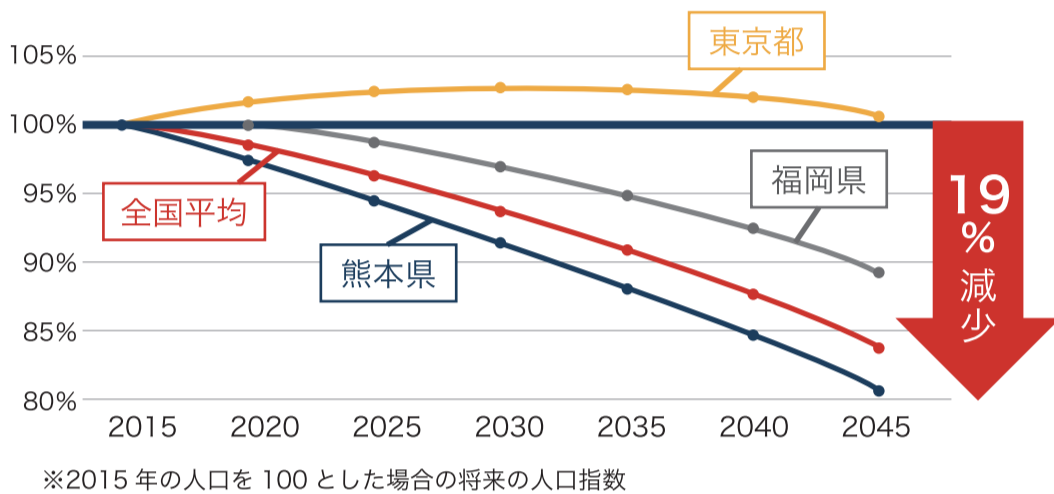
- 需要・供給の両面で経済に悪影響を及ぼす恐れ
- 結果として、税収が減り、財政にも悪影響を及ぼす恐れ
- 社会全体が悪循環に陥り、社会の持続可能性が損なわれる恐れ

人口減少には、上記の通り、多くの悪影響がありますので、歯止めをかけなければいけません。

人口減少の要因は、①自然減（出生数よりも死亡数が多い）②社会減（転入者よりも転出者が多い）の二つに大別されますが、熊本は、出生率は全国トップクラスですので、転出者を減らし、転入者を増やしていかなければなりません。

そのために、①渋滞解消と②基幹産業の発展をテーマに掲げ、熊本のまちづくりに取り組んで参ります。

熊本県の将来人口統計



- ✓ 熊本県の人口は、30年間で約2割減少
- ✓ 19%の減少幅は、全国平均の約16%を下回る
- ✓ 福岡県の減少幅(約11%)の約2倍

テーマ① 渋滞解消

熊本市の主要渋滞箇所数は、政令市で**全国ワースト1位** (180箇所)、中心部の平均速度も**全国ワースト1位**です。

渋滞により、通勤・通学のコストやストレスが増加し、「住みにくさ」に繋がっています。また、物流コストの増加を懸念する企業や工場などの進出を妨げる要因となっています。

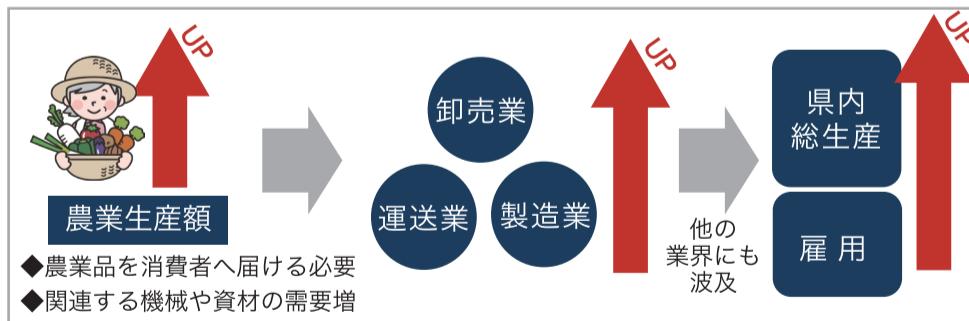
交通渋滞解消は、熊本の持続的な発展に欠かせません。渋滞の少ないストレスフリーな住みやすい町・熊本、物流が円滑化され**経済が活性化していく熊本**を創ります。

政令指定都市の主要渋滞箇所数



テーマ② 基幹産業の発展

基幹産業とは、地域の経済全体を支える産業のことです。観光やエネルギーなど、熊本の特色を活かした産業を大きく育てることによって、他の業界にも波及効果をもたらし、熊本の経済全体を大きくするとともに、若者にとって魅力のある働く場を増やすことが重要です。



熊本は農林水産大国であるにも関わらず、担い手の確保など多くの課題に直面しています。農林水産業を継続可能なものにするとともに、基幹産業へと大きく発展させるために、複合的な施策を実現させなくてはなりません。

上記の2つの政策を実現することによって、下記の政策目的3つを達成することができます。

目的① 住みやすい町の実現

目的② 経済の活性化

目的③ 持続可能な社会の実現

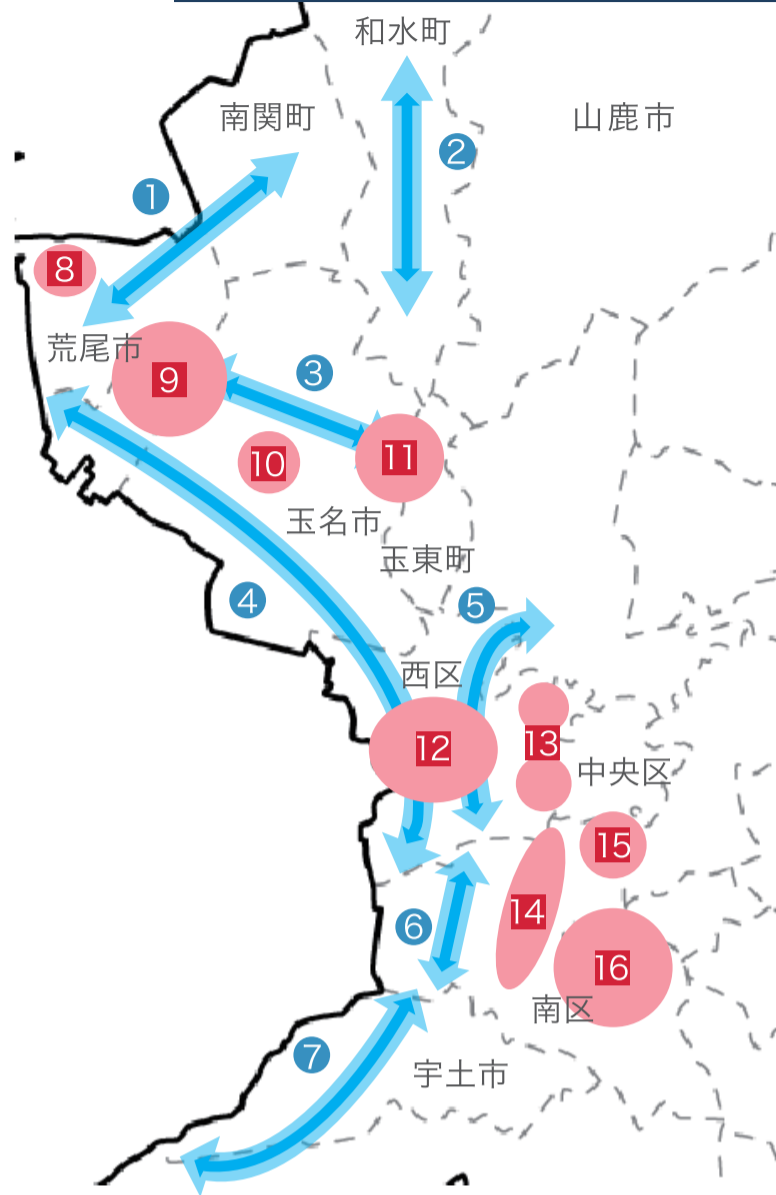
西野だいすけが目指す熊本 ~ふるさとの持続的な発展のために~

交通渋滞を
解消するには？



- 幹線道路整備の加速化
(有明海沿岸道路・熊本西環状道路・西回りバイパス等)
- 大規模交差点の立体交差化
(田井島交差点等)
- 主要渋滞箇所となっている小・中規模
交差点の右折レーンの拡充
- AIを活用した信号機の実証・活用
- 市電やバス等の公共交通機関の拡充
- 高架都市高速道路の検討

熊本2区内の解消すべき主な渋滞箇所や整備すべき幹線道路(私案)



整備すべき幹線道路

- 1 【南関町】 南関ICと有明海沿岸道路の連絡道路の整備
- 2 【和水町】 菊水地区-三加和地区を結ぶ架橋や道路の整備
※こもだ橋の拡幅など
- 3 【玉名市】 国道208号(バイパス)の4車線化
- 4 有明海沿岸道路の早期整備
- 5 西環状道路と西回りバイパスの整備の加速化
- 6 【飽田地区】 国道501号の早期整備
- 7 【天明地区・富合町】 熊本・天草連絡道路の整備

解消すべき主な渋滞箇所

- 8 【荒尾市】 国道208号(原万田→万田)
- 9 【荒尾市・玉名市】 国道208号(金山→西照寺→開田)
- 10 【玉名市】 国道208号(高瀬→大倉)
- 11 【玉名市・玉東町】 国道208号(玉東町役場→稲佐→田崎→寺田)
- 12 【河内町・松尾地区】 国道501号
- 13 熊本駅周辺、上熊本駅周辺
- 14 国道3号(迎町→世安→近見→南高江→杉島)
- 15 浜線バイパス(八王寺→田迎6丁目→田井島)、流通団地周辺
- 16 【城南町・富合町】 国道266号(蕃町橋[メドマチバシ]周辺)、
田迎一木原線(釈迦堂周辺)

テーマ① 渋滞解消

目的③ 持続可能な社会の実現

テーマ② 基幹産業(=農業)の発展

農業をさらに発展させるための政策パッケージ

担い手の確保	成長産業化→所得の増大	プロジェクトチーム設立	メンバー	
(1) 新規就農の促進 ・農村体験の機会の拡充 ・マッチングの促進	(4) 6次産業化・高付加価値化の推進 ・ブランディングの強化 ・経済界と農業界の連携促進 ・農業界の観光資源化		農水省	県・市
(2) 外国人実習制度の改善 ・仲介制度の検討 ・受入期間の再検討	(5) 輸出拡大 ・ブランディングの強化 ・有望市場の開拓 ・認証基準(GAP等)の導入促進			

※今回は基幹産業として、農業を取り上げますが、観光などについても、大きな可能性を秘めており、政策パッケージを実現し、基幹産業に発展させる必要があります。

目的② 経済の活性化

人口増加

移住者
定住者
Uターン
増

財政の安定

税収の増加
行政サービスの向上

他の業界にも波及

関連業種から
関連業種へ

ストレス・時間コスト減少

通勤・通学時間
子供の送迎時間
車で過ごす時間
減

目的① 住みやすい町の実現

プロフィール

● 昭和53年9月22日、熊本県飽託郡飽田町砂原(現・熊本市南区砂原町)生まれ。● 飽田東保育園卒園、熊本市立城東小学校、藤園中学校、熊本県立熊本高校、東京大学法学部卒業。● 平成15年財務省入省。米国コロンビア大学公共政策大学院修了後、大臣官房秘書課課長補佐、復興庁参事官補佐、主計局主査などを経て、平成28年4月、財務省退官。● 平成29年10月、第48回衆議院議員総選挙に熊本2区から出馬。62,575票を得るも、落選。現在、次なる戦いに向けて、精力的に活動中。